

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 1月20日

【評価実施概要】

事業所番号	3470900659		
法人名	特定非営利法人活動法人はあとうおーむ		
事業所名	グループホーム たんぼぼ		
所在地 (電話番号)	広島県三原市東町2-4-21 (電話) 0848-81-0670		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6番29号		
訪問調査日	平成20年1月15日	評価確定日	平成20年2月12日

【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 10 月 1 日		
ユニット数	9 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 4 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 6.6 人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	4 階建ての	2 階 ~ 4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 86.7 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山田脳神経外科 ・ 得能クリニック
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「たんぼぼ」は、JR三原駅から徒歩で約7分の位置にあり、家族の来訪や利用者の方の外出を兼ねた買い物等にも利便性も高く、医療機関も隣接し、生活環境も整っている。共用の空間としては、日当たりも良く畳部屋とリビングが繋がっており、家庭的な環境の中で利用者の方は安心して、ゆったりとした雰囲気でも過ごされている。ホームでは、開所時より利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていく理念を作り上げ、利用者や地域ニーズに応じたサービス提供に取り組まれている。職員は利用者個々の尊厳を大切にしながら、常日頃から利用者への自立を念頭に置き、支援されているのが伺えた。また、事業所の力を活かした地域貢献にも積極的に取り組まれており、事業所で培ってきた成果を地域に伝えられるように努められている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善点については、時間を要する部分でもあるが、これらは日々を重ねる毎につれて解消されてきていると思われる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の目的は全職員で認識されており、常にサービス向上に向けた取り組みをしている。今後も、ホームとしての役割や職員一人ひとりが何のために支援するのかを認識し、常に自己点検に努めることを期待する。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議の目的を今以上に明確にしながら、地域の方の声を大切にされて、参加された方からののお知恵や意見等を活かしながら双方向的な会議となることが期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 電話連絡や面会時などに不安、不満があればそれらをしっかりと受け止め、また都度話し合いが出来るように努力がなされている。そして、問題があれば職員間でしっかりと討議し、運営に反映されている。今後の利用者支援のためにも家族の方が運営推進会議などに参加が出来るような体制づくりを望みます。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームは地域に開かれた運営という目的や、ホームとしてもこれらの機能を活かすためにも、地域との積極的な連携を図ることにより、更なる利用者の生活の幅が広がることを望みます。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念をつくりあげて、支援の基本となっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時には、理念をよく伝え、理解してもらえるようにしている。		理念の実現化を図るため、まず身近で達成可能な目標を設定し、出来るところから実現していくことも一つの方策と思われる。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の行事などの催しには、率先して参加したり、職場体験学習の場の提供を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の大切さを再認識し、評価の一連の過程を分析し、更にこれらを活かす取り組みを図っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所からの報告が主になっているようであり、今以上に参加者からの意見や質問等をひきだす取り組みが期待される。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現状として運営推進会議に市町村担当者が参加してもらえていない状況があるが、いつでも受け入れる体制がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的な電話連絡や写真を送ったりし、また来所時にはホーム内での近況報告することを徹底している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族などが来所時に不満や意見、要望などを聞き出す雰囲気づくりの場面を設け、これらを運営に反映させていく取り組みがなされている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常にホーム側として、職員全員が働きやすい環境づくりにも取り組み、異動も必要最小限に抑える努力がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修などには、常勤や非常勤となるべく全職員が受講できるように取り組まれており、サービスの質の向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所などと交流会が出来ていない状況があるが、実習生の受け入れを行い、情報交換を行っている。常に受け入れる体制づくりがなされているが、今後はこれらの交流会を持つことにより、更なるサービスの向上を期待する。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
、					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	すぐ利用となるケースもあるが入居に際しては、必ず事前面接やホームを見学して頂いた上で、入居に至っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの人権を尊重し、お互いが協働しながら和やかな生活が出来るよう、声掛けや場面設定を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を確認し、日々の暮らしの中でも利用者の希望や意向を把握し、支援されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の利用者との関わりのなかで、本人の思いを聞くようして計画に反映している。ニーズがあることは、それなりに本人の背景要因があることを再認識し、今後もより良い支援がされる事を望む。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の申し送りやミーティングなどの際には、必要に応じて意見交換し、その都度計画・見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	行きつけの美容院やかかりつけの医師などへの通所な どは、本人や家族の状況に応じて送迎など柔軟な対応 がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得ら れたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院のほか、利用前からのかかりつけ医 師への医療がうけられるように支援を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	ターミナルケアについては、入居時に本人や家族の意 向を確認した上で、事業所として最大のケアについて よく説明している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	ミーティングなどの機会などで、プライバシーの確保の 徹底について職員の意識向上を図っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に考慮し、その日その瞬間を大切に、個別対 応のサポート体制がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立のづくりから、食事の準備や後片付けも可能な場面で一緒に行っている。職員も同じ時間に同じ食事をされる努力がされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間入浴は行っていないが、利用者の意向を踏まえた入浴が出来るように支援されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1日1～2回はレクリエーションを行っている。そして、個々の能力に応じたケアも行っている。ケアの視点でもある「本人の可能性を奪わない」視点のもと支援されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者のその日の気分などに配慮しながら外出支援されている。今後も、利用者に寄り添う気持ちを大切にしたい支援がなされることを望む。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の個々の状況を把握し、職員の見守りの方法や玄関チャームなどの活用で鍵を掛けずに生活出来るような支援体制が整っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成して避難訓練を行っている。災害時にはホームは地域の拠点となるため、災害対策への意識づけが必要不可欠である。今後、近隣との協力体制作りを期待する。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日30品目になるような献立を工夫し、毎月1回は体重測定を行い、個々の状況に見合った食事の提供をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、日当たりも良く、五感や季節感を意識的に取り入れる工夫をされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前に使用されていた物などを自由に持ち込まれており、居心地の良い生活空間作りをしている。新規入居時にも不適應をおこさないように配慮されている。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームたんぽぽ

評価年月日 平成19年 7月 30日

記入年月日 平成19年 12月 30日

記入者 職 管理者 氏名 箱田 小百合

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	その人らしく生活する事を支えるには、と考えているものの、地域の中でという所はあまりイメージしていなかったので、理念の見直しが必要かと考えている		地域との関係性が重視されるようになってきているので、それもしっかりイメージして理念の見直しを考えている
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員の採用時には必ず理念を伝え、理解してもらえるようにしているが、ミーティング、申し送り時、十分確認出来ていない		まずミーティングで理念を掘り下げ、職員全体で話し合い、具体的なケアの統一を図っていきたい
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	ホーム便りの発行が出来ていない		定期的なホーム便りの発行と、地域向けの情報紙を発行し地域の人に配っていきたい

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日々散歩や買い物などに出かけ、近隣の人たちと挨拶を交わしたり話しをしたりしている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	秋の運動会へのしかできていない 地域の中学生の職場体験は受け入れている		近くの保育園との交流について考えていきたい

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	人材育成の貢献として、実習生の受け入れを積極的に行っている。認知症サポーターの養成について、老人会の勉強会に参加している		
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全員で行うことが出来ていない		自己評価を全員で行うようにしていきたい
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	内容が、報告や情報交換にとどまっている		自己評価の内容を説明したり、外部評価の結果を公表していきたいと思っている
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議に市町担当者が参加してもらえていない		市町担当者にも運営推進会議に参加してもらえよう、お願いしていきたい
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者が対応してきたため、他の職員は理解していない		勉強会を開き、職員の理解を深めていきたい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止法に関する勉強会は開いていない		高齢者虐待防止法に関する勉強会を開きたいと思っている

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	時間を取ってないに説明し、重度化や看取りの対応についても説明している		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をしているが、全員でその思いを話し合う機会がなかった		その時々を利用者の不安・思いをスタッフ全員で話し合う時間を作る
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	来所時に近況報告をしたり、日々の暮らしの中での写真を送ったり、何らかの変化があったときは電話を入れるようにしている		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族には、電話や来所時に何でも言ってもらえるような雰囲気作りに努めてはいるが、十分ではないといえる		ご家族に対し積極的に意見・要望を聞いていくようにする(電話や来所時)
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	要望や意見を聞くよう声掛けてはいるが、不満や苦情は言い難い部分も多いと思われるので、把握しきれていない可能性もある		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	管理者が通常のシフトに入ることがあり、利用者の状態の変化に適した柔軟な体制が取りにくい事がある		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>馴染みの職員が対応することが大切と考えてはいるが、離職がやむを得ない場合も引き継ぎの面で最善の努力をするようにしている</p>		
5 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>事業所外での研修を受講できるように声をかけてはいるが、全員が参加することは出来ない</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>他のグループホームの見学や、相互研修会など出来ていないが、実習生の受け入れを行っているため情報交換は出来ている</p>		<p>他のグループホームの見学や（三原市内）交流会・相互研修会をしていきたい</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>勤務中いつもと違う表情がみられたり、言動にも気を配るようにして声をかけている 休憩の場所も気分転換できるように工夫している</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>スタッフの資格取得に向けた支援を行うようにしている</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">安心と信頼に向けた関係づくりと支援</div>				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>サービス利用について相談があったときは、必ず本人に会って、心身の状態や本人に向き合い、本人に受け入れられるような関係作りに努めるようにしている</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	これまでの経緯についてもゆっくり話しを聞くようにしている		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	状況等を確認し、必要なサービスにつなげるようにしている 他の事業所へ紹介も行っている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	すぐ利用になるケースも多いため、本人の納得を得ることは難しい現状である		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お互いが協働しながら和やかな生活ができるよう、場面作りや声掛けをしているが、十分でない		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜ぶ哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	日々の暮らしの出来事や、気付きの情報共有に努め、本人を支える姿勢でいる事を伝えようとはしているが、十分には伝えきれていない		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族の思い、本人の家族への思いを受け止めて両者の思いが結びつくような働きかけを心掛けるようにしている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき た項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	行きつけの美容院に行き続けたり、命日近くには墓参りに行っている利用者がいるが、最近難しくなっている		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	お茶や食事の時間をスタッフも共にし少しでも会話を多くするようにしたり、役割・活動等を通して利用者同士の関係がスムーズに行くように努めている		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了された方との関わりは今は行っていない。以前はあった		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で声をかけ、把握に努め言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人自身の語りや家族の訪問時など、少しずつ把握に努めているが、なかなか情報がとれていない		入居されてからでよいので、少しずつ情報の把握に努めていく
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	できること、わかることに注目し、その人の全体の把握に努めるようにしている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日々の関わりの中で本人の思いを聞くようにして、計画に反映させるようにしているが、家族の要望が十分に聞けていない		家族の要望をしっかりと聞いていくようにする
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状況が変化した際には、検討見直しを行っている		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ファイルを用意して、日々の暮らしの様子や本人の言葉・エピソード等を記録している		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、民生委員と意見交換する機会を設けている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	福祉用具購入の際には、他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合って購入している		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加することにより、支援に関する情報交換ができるようになる		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている また、受診や通院はほんにんや家族の要望に応じて対応している		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	提携医療機関が脳神経外科医師だったり、かかりつけ医が精神科だったり、診断情報や治療方針、認知症についての指示や助言をもらっている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化に伴い事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>本人の気持ちを大切にしつつ家族と話し合い、利用者が安心して終末期を過ごしていけるよう取り組んでいる</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>新しい住居でもこれまでの生活が継続できるよう、支援の内容、注意点について情報提供している</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>他の家族や外来者に対して、スタッフが本人のプライバシーに関する話を話さないようにしている</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>食事のメニュー（どんな野菜を食べたいか）など一緒に決める 買い物に行き食べたいおやつを選んでもらう</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>その日、その時の気持ちを尊重して、出来るだけ個別性のある支援を行っているが、十分でない (体調には配慮している)</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	入浴後や起床時など、持っている物の中で出来ている		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニューを一緒に決めたり、片付けを出来る人にはしてもらい、職員と一緒に食事をし、会話を楽しむ		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人一人の嗜好を知り、本人の様子や時間を見ながらそれを楽しめるようにしている		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	自分でトイレに行けない人は、時間を決め誘導、介助している		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	夜間入浴は行っていない(スタッフの人数及び設備構造上の問題のため)		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	和室を設けており、好きなときに横になってもらう		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	1日1～2回はレクリエーションをし、その人の好きなことや得意なことを支援できるようにしている その人に出来そうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理が難しいため、利用者同士のトラブルを避けるためにも持っていない		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気がいい日の散歩と、利用者のレベルに合わせて買い物や季節ごとのイベントとして出かけるようにしている		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	季節ごとのイベントとしてレンタカーを借りて出かけたりにしている		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者側から電話や手紙を出していないが、毎月の支払いに家族が来られ会って行かれる		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間も決めず、好きなときに来てもらうようにしている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日々の申し送り、報告等で自覚しない身体拘束が行われていないか、ケアを振り返るようにしている		高齢者の権利擁護や身体拘束に関する研修会参加、説明会をしたいと思っている
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者の外出の癖や傾向をつかむようにしている スタッフの見守りと玄関チャイムとで、鍵を掛けずに生活する事を支援をしている		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼夜共にスタッフが利用者を見守りやすい位置にいて、利用者の様子を察知するようにしている		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	物品の保管・管理は目の届かない所に置くようにしている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	利用者の状況に応じて予測される危険を考え防ぐ工夫をするようにしている		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	急変時、電話の手順を解りやすいように書いている		全ての職員が年に1回応急手当の勉強会を体験したいと思っている

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアル作成して避難訓練を行っているが全員参加は出来ていない		避難訓練の全員参加
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	家族にもきちんと説明し、利用者の状態が変わればその都度話し合い、ノートを使いスタッフが同じケアが出来るように申し送りを行っている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	変化・異変があるときは、個人記録や日誌に赤で記入する様にし、管理者に報告する バイタルや体温も高い人は毎日計り普段の状態がすぐ解るようにしている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個別に毎食後の薬を分け、手渡してきちんと飲んだか確認している		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	適度な運動や水分に気を付けている 天気が良い日は散歩に行き身体を動かすようにしている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後スタッフ見守りの中、一人一人の力に応じた歯磨きの手伝いを行っている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事状況を記録しスタッフが情報を共有できるようにしている 1日30品目になるよう工夫している		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	感染症に関して情報収集を行い早期発見・早期対応に努めるようにしている		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板は毎日消毒し、台所周りを清潔に保つよう心掛けている 食材はなるべく買いためしないようにしている		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関にスロープ、手摺りを設置している		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	五感や季節感を意識的に取り入れる工夫をしている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ベンチ、ソファを置いて仲のいい利用者同士で寛げるスペースを作っている		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者の好みや馴染みの物などを部屋に持ち込んでもらい、居心地の良い生活空間作りに努めている		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	定期的に換気するようにしている トイレは換気扇と消臭剤を使用		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の状況に合わせて手摺りや家具の配置等工夫はしているが十分でない		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	本人のわかること、わからない事を知るようにし、状況に合わせて環境を整えるようにしている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダは少しあるが花の手入れが出来ていない		花の手入れをしていきたい